

# 早稲田社会学会ニュース 第39号

2012年4月11日発行

早稲田社会学会事務局  
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1  
早稲田大学文学部 社会学研究室内  
Tel: 03-5286-3742  
E-mail: socio-office@list.waseda.jp  
URL: <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

## 今回のニュースの内容

1. 第64回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告および『社会学年誌』第54号投稿の募集
4. 2012年度研究助成の募集
5. 第34回研究例会開催のお知らせ
6. 入退会者のお知らせ
7. 学会費納入のお願い

### 1. 第64回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会が、2012年7月14日(土)に、早稲田大学文学学術院(戸山キャンパス 36号館382教室)において開催されます。シンポジウムのテーマは「当事者性と支援を問う: 震災の当事者/貧困の当事者」です。詳細につきましては次項「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、6月中旬にお知らせする予定です。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、第3項をご参照のうえ、事務局までお申込みください。

### 2. 本年度大会シンポジウムについて

テーマ: 「当事者性と支援を問う: 震災の当事者/貧困の当事者」

報告者: 浦野正樹(早稲田大学)、早尾貴紀(東京経済大学)、仁平典弘(法政大学)

討論者: 堅田香緒里(埼玉県立大学)、木村正人(高千穂大学)

司会者: 渋谷望(日本女子大学)

<趣旨説明>

社会問題としての「被災」(津波震災の被害)と社会問題としての「貧困」を峻別する言説があるようにみえる。震災による被災は自然災害であり、社会の格差や貧困問題などとは性質が異なるというように。両者を区別することは、災害の被災者を「特権化」とすると同時に、彼らの多様な存在とニーズを不可視化し、彼ら「自

然災害」の被災者は、時間の経過とともに「立ち直る」ことが——つまり、社会のあり方を問うという面倒なことはせずに——暗黙の前提になりつつあるように見える。あるいはそこからさらに、格差社会をなくすという従来の議論と、被災者を救うという議論が衝突するものとさえ考えられつつあるようにみえる。（もちろん他方で「絆」の重要性を再認識する議論もある。が、これについてもその質を問う作業も必要かもしれない。）しかし、被災の被害が想像以上に甚大であったということは、日本社会が災害に対してきわめて脆弱であったことを露呈させたということではないだろうか。たとえば、生じた被害をミニマムに抑える行政の能力は災害前にすでに、行政の効率化（＝市町村合併）によって縮小されていた。また被災者を想像し、彼らを受け入れる市民社会の力——あるいは「溜め」（湯浅誠）——もすでに奪われていたのではないだろうか。あるいはわたしたち自身が被災者になるという想像力が必要だったのではないだろうか。言い換えれば、従来の貧困や格差の当事者と今回の震災の被災者を峻別することはどこまでできるかということを考えることになる。今年度の大会では、「震災」の当事者を、上記に観点、すなわち社会的に条件づけられた「貧困」問題の当事者という観点から、その多様な存在とニーズを検討したい。

（文責：研究活動委員 渋谷望）

### 3. 大会一般報告および『社会学年誌』第54号投稿の募集

申し込みを希望される方は、以下の項目をA4の用紙1枚に記入し、事務局宛て郵送またはE-mailにてお送りください。両方に申し込む場合には、それぞれ別の用紙で申し込みをお願いいたします。

大会一般報告、または『社会学年誌』第54号投稿、のいずれかを明記してください

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）

大会報告：申し込み締め切りは、5月16日（消印有効）です。

『社会学年誌』投稿：申し込み締め切りは、6月30日（消印有効）です。

『社会学年誌』原稿の提出締め切りは、8月末日（消印有効、郵送のみ受付）です。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退なさる場合は、8月15日までにその旨を必ずご連絡ください。なお、分量、書式その他、投稿規定については、『社会学年誌』の最新号（第53号）をご参照ください。

現在早稲田社会学会会員でない方で発表もしくは投稿をご希望の方は、上記の申込書とあわせて入会申込書をお送りください。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会HPの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

#### 4. 2012 年度研究助成の募集

これまでに当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重して、次の要項により会員各位の研究活動を助成いたします。

助成対象：早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動  
助成額： 1 件 30 万円程度を上限とする

助成を希望される方は事務局までご連絡ください。追って「申請書用紙」をお送りいたします。申請書の提出締め切りは、5 月 16 日（消印有効、郵送のみ受付）です。なお、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して 2 年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告（または学会誌投稿）により、その成果を報告していただくようお願いいたします。

また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局までお問い合わせください。

#### 5. 第 34 回研究例会開催のお知らせ

第 34 回（2012 年度第 1 回）研究例会が下記の要領で開催されます。多数のご参加をお待ちしております。

テーマ：『災害』の当事者性と支援を問う

日時：2012 年 5 月 19 日（土） 14:00-17:00

会場：早稲田大学文学部（戸山キャンパス）39 号館 6 階第 7 会議室

司会者：木村正人（高千穂大学）

報告者および題目：

川副早央里（早稲田大学） 「東日本大震災の支援に関する一考察—いわき市の事例を中心として（仮）」

渋谷望（日本女子大学） 「すべり台社会とショック・ドクトリン——貧困を考える」

##### <趣旨説明>

今年度から新たに編成された研究活動委員会では、さまざまな社会領域における「当事者性と支援」をテーマとした例会・シンポジウムを、今後 3 年間にわたるシリーズとして企画している。第 34 回研究例会では、その嚆矢として、東日本大震災を契機にあらためて浮き彫りにされてきた「社会の貧困」について、当事者性と支援という視角から取り上げる。

かつて小泉構造改革路線によって、経済格差は「我慢すべき痛み」として捉えられたが、私たちは、2000 年代半ば以降、ネットカフェ難民、ワーキングプア、派遣切り、無縁社会などの現象を通じて、相対的格差にとどまらない絶対的貧困の存在が、特定層の人間の生存を脅かしているだけでなく、私たちの社会的紐帯そのものをすでに相当範囲にわたって掘り崩していることに気づき始めた。

昨年来の一連の災禍が単なる一過性の自然災害としては捉えきれないものであることは、すでにさまざまなかたちで論じられてきたが、3.11 以後という「有時」の言論は、必ずしも、これをそれ以前から伏在した如上の経済的社会的災害との関わりで、もうすこし言うと、「平時」においてすでに見られた社会的な資本と費用ないしリス

クの配分をめぐる問題との関わりで十分に論じてきたとは言いがたい。

そこで災害概念を広く、私たちの社会の窮乏状態と関連付けて捉えなおした場合、「被災」の現場とそれに応じた「当事者」と「支援者」の立ち位置はどのように見えてくるだろうか。本例会では、災害社会学の研究と同時に災害支援に直接携わってこられた川副早央里さんに、それらのご活動から得られた知見をお伺いし、次いで、渋谷望さん（研究活動委員）には、7月のシンポジウムでの議論を見据え、反貧困運動のなかで提示されてきた議論や惨事便乗型資本主義の視点など、災害における支援のあり方と困難を、より広い社会構造の問題として捉えうる理論枠組みの可能性について論じていただく。多数の方のご参加をいただければ幸いである。

（文責：研究活動委員 木村正人）

## 6. 入退会者のお知らせ

2011年12月17日の理事会において次の方の退会が承認されました。

伊野大道 氏

## 7. 学会費納入のお願い

今年度の学会費を、同封の「郵便振替払込書」にてお振り込みくださいますようお願い申し上げます（今年度分をすでに納入されている方および名誉会員の方宛てには、払込書は同封しておりません）。

年会費： 一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円

口座番号： 00100-3-38020

加入者名： 早稲田社会学会

以上